

イトヨーカドー労働組合の歴史を振り返ろう!

1970年代の主な出来事

労働組合結成50周年を機に、労働組合がどのような想いで活動し歩んできたかを今年度発行するSANKA!で10年ずつ振り返っていきます。今回は第1回ということで、労働組合が結成された1970年からの10年を振り返ります!

《イトヨーカドー労働組合結成》

1970年10月22日にイトヨーカドー労働組合結成大会が開催され、組合員数約2,200名によって労働組合を結成。労働組合が結成した原動力は「当社のような大きな企業に組合がないのは不自然ではないか」「ボーナスを年内に支給して欲しい」という声があがったからでした。

《SANKA!の由来》

1970年12月1日に、機関誌である「組合新聞(仮称)」が創刊。「労働組合に無関心であってはならず、もっと各人が組合に参加することに望みを持って欲しい。いつも参加の気持ちを忘れないようにしたい。」という思いから「さんか」と命名されました。その思いは、現在の「SANKA!」に受け継がれ、今でも大事なコミュニケーションツールとなっています。

《IAM運動》

1971年生産性を上げるために、私たちができることはお客様を大切にしないか。そんな考えからこの活動を実施しました。

- 【I】いらっしやいませ
- 【A】ありがとうございました
- 【M】またおこしくださいませ



《ビバ・ヤング》

1972年4月18日に労働組合が行う行事として初めての「新入組員歓迎大会(ビバ・ヤング)」が開催。組合員3,800名中約2,000名が参加しました。



《福祉カンパ》

1975年労働組合結成5周年を迎え「福祉カンパ」をスタート。現在のイトヨーカドー労働組合のボランティア活動の原点であり、基本となっています。



《イトヨーカドーグループ労連結成》

1979年11月17日組織が拡大化することにもない社会的責任がまし、イトヨーカドーグループ内の労働組合が連携を図り、柔軟に対応していくため、イトヨーカドーグループ労連を結成しました。

- ・イトヨーカドー労働組合
- ・デニーズジャパン労働組合
- ・ヨークサービス労働組合

1970年代のイトヨーカドー労働組合のあゆみ

1970年(昭和45年)

- ・イトヨーカドー労働組合結成
- ・ゼンセン同盟加盟
- ・専門部体制(調査・組織・教宣・厚生)での運営



1971年(昭和46年)

- ・IAM運動(生産性向上運動)実施
- ・特別委員会(賃金・時短・レク・労対)の発足
- ・地方店出店に対する制度見直し
- ・年間休日80日(Aパターン者)

1972年(昭和47年)

- ・ビバ・ヤング(新入組員研修会)開催
- ・残業問題対策委員会発足
- ・赴任規定見直し
- ・社内提案制度スタート

1973年(昭和48年)

- ・閉店時間の要求(21時→20時へ)
- ・職業病労使協議会の発足
- ・レジに関する労使協議会の発足
- ・労災付加給付の増額改訂
- ・持家融資制度の新設
- ・年間休日90日(Aパターン者)

1974年(昭和49年)

- ・第1回他産業調査実施
- ・年間休日102日(Aパターン者)

1975年(昭和50年)

- ・変則一直制度導入
- ・福祉カンパ活動スタート
- ・時短労使専門委員会の発足
- ・年間休日110日(Aパターン者)
- ・一直制導入

1976年(昭和51年)

- ・地区別労使懇談会開催(ゾーン別・ディストリクト別)
- ・社に合わせたブロック体制へ再編
- ・生鮮問題特別委員会の発足

1977年(昭和52年)

- ・組合学校スタート
- ・ユニオン共済会(現共済会)の発足
- ・年末、年始交渉(郡山・栃木・古河3店舗初売り変更1月2日→3日)

1978年(昭和53年)

- ・「新家族の集い」キグレ大サーカス
- ・「時短キャンペーン」スタート
- ・寒冷地手当新設

1979年(昭和54年)

- ・イトヨーカドーグループ労連結成
- ・教育活動5ヵ年計画スタート
- ・一時金「愛の募金」活動スタート
- ・残業制限時間の一時撤廃

「未来への創造」～魅力ある、社会的価値創造企業を目指して～

さんか SANKA!



結成50周年を機に

新たな一歩を
踏み出して行こう!



INDEX 第50回定期中央大会報告号

- 03 未来を創造できる、強い組織へ 渡邊中央執行委員長
- 04 第50回定期中央大会開催報告
- 05 三枝社長、渡辺東京都支部長あいさつ
- 07 魅力ある、社会的価値を創造する企業を目指して行こう! 千代田中央執行書記長 「未来への創造」に向けた3つの基盤
- 08 労働組合結成50周年! 将来に向けた新たな事業や活動に挑戦します!
- 09 50周年記念事業・行事コンセプト「未来・創造・YJ」
- 10 2020年度中央役員が決定!
- 11 石合前中央執行委員長が特別中央執行委員に選出されました! 私たちの活動をサポートする5名の参与が任命されました!
- 12 82名の功労者を表彰! 退任者あいさつ
- 13 2020年度の活動に向けてブロック長、フィールド・パートナー専門委員の決意表明!
- 14 組合員の皆さんへゾーン議長よりメッセージ
- 15 田村まみ参議院議員にごあいさつをいただきました! 恵庭支部 支部解散式 食品館川越支部 支部結成式
- 16 イトヨーカドー労働組合の歴史を振り返ろう!

未来を創造できる、強い組織へ

中央執行委員長 渡邊 健志

【心機一転】～新たな気持ちで事に臨む～

2020年度、イトーヨーカドー労働組合は、結成50周年を迎えます。また会社も創業100周年を迎えるIYとしての節目の年です。この機会をきっかけに、心機一転、皆さんと共に新たなIY労組を結成していく気持ちで活動に取り組んでいきたいと思ひます。

その上で大切にしなければならない事は「IYの基本」や「商売の原点」です。基本や原点は、物事を進めていく際に、悩んだり迷ったりした時に「立ち返る」場所です。如何なることがあっても「変わらないもの・変えてはならないもの」でなければなりません。このことをベースに「問題意識を持った活動」「魅力や価値を生み出す活動」「組合員に近づく活動」に取り組んでいきたいと思ひます。

【環境変化】～社会的価値を創造できる企業をめざして～

まず、私たちが常に押さえていなければならないことは、「環境変化」と「置かれている立場や状況」を正しく理解したうえで行動するという事です。そして、それは「木を見て森を見ず」また「森を見て木を見ず」であってはなりません。国内外で起こっている事すべてが、私たちの商売や生活に何らかの形で影響を及ぼすからです。広く世界に視野を向けると、爆発的な人口増加により「貧困」「温暖化」「資源不足」

「食糧難」など様々な深刻な問題を抱えています。この世界規模での大きな社会環境問題への対応として、国際的な取り組み基準と目標である「SDGs」が国連サミットで採択され、各国に示されています。また、産業構造についても、第4次産業革命として、AIやIoTの進歩による自動化などの技術革新が各産業に大きな変革をもたらしています。国内では、少子化問題や超高齢社会などに関連し「社会保障問題」「人手不足」「環境・災害問題」「市場縮小」といった問題が顕在化しています。これら国内外の諸問題への具体的な対応として「課題解決」と「未来創造」の視点を兼ね備えた成長モデルとして「Society5.0」を掲げ将来目指していく日本社会への舵を切り、その取り組みが進められています。これからの時代は、このような国内外の情勢や環境変化を敏感に捉え、対応していく事、つまり、企業利益の追求だけでなく、事業活動を通じてこれらの社会環境問題に貢献していくことのできる企業でなければ、ステークホルダーに認めて貰えない時代です。「社会的な価値を創造していく」企業が高い社会的評価を得ることとなり、成長や発展の基となります。組合員の幸せ実現のために、企業の成長と発展は不可欠です。こういった観点から、私たちは「社会的価値を創造する企業」をめざしていく必要があるということを理解しなければならないのです。



【原点回帰】～基本を大切に初心を忘れず～

節目の年は、IYのターニングポイントでもあり、私たちのターニングポイントでもあります。IYに入社し、それぞれが自分の目標達成に向けて、様々な経験を通じて知識を身につけて成長してきました。しかし、環境が変化している事に対応仕切れず、悩んだり、諦めたりしているのではないのでしょうか。経験で得た知識や力は、本来、更なる成長に向けた挑戦につなげていくのですが、逆に自分が守りに入るための殻にもなります。この節目の年を機に、自分の殻から抜け出し原点に立ち返る機会としていきたいと思ひます。1人でも多くの社員が、自分が置かれている状況を素直に分析し、仲間との協力やお互いを高め合い、挑戦し続けることで一歩一歩確実に自己実現に近づくこととなり、そのことがマンパワーにつながる、強い組織づくりの基盤となります。原点回帰は、会社や個々が見失いかけているものを思い返し奮起するために、今のIYに最も必要な要素だと言えます。

【意識改革】～常に問題意識を持った活動を～

私たちを取り巻く内外の環境変化と様々な課題に対応していくために、今年度は、3つの活動に挑戦をしていきたいと考えています。一つ目は、「問題意識を持った活動です」私たちを取り巻く環境は変化の連続です。その変化に対応するには、取り組み内容や運営体制を変えるだけでは為し得ません。人の意識と行動が変わらなければ成果に結びつかないからです。意識と行動を変えるには、目的や物事を正しく理解する。その上で目標を持つことです。企業を支えるすべてのステークホルダーの評価が社会的価値に大きな影響を与える時代であるということ意識した上で、IYの商売の基本である「単品管理の追究」と「基本4原則」に拘り続けて行くことが、企業の「強さや価値」そして「ブランド」となります。このことを全社員が、それぞれの立場で、商品力・売場力・コミュニケーション力を追究することで可能となります。そして何より重要な事は、これを阻害する問題点である「ムリ・ムダ・ムラ」を個々が改善していく風土です。現在、取り組みを進めている「改善＝工夫」運動を通じて、この実現を目指していきたいと考えています。

【やりがい】～魅力や価値を生み出す活動を～

二つ目は、「魅力や価値を生み出す活動です」企業業績と労働条件は表裏一体の関係にあり、私たちが業績向上に取り組むことは当然必要なことです。大事な点は「やりがい」に繋がる業績向上への取り組みでなければ成果も得られなければ継続性も失うということです。

「やりがい」を引き出すには、そのことが、商売をする上で「魅力や価値」があることが実感できるか否かです。これまでの活動のあり方に固執することなく「個の力」を引き出す機会づくりに取り組んでいきます。

【一致団結】～組合員に近づき共に活動を～

三つ目は、「組合員に近づく活動」です。一支部一組合、一つの支部が一つの組合として機能する組織を目指して、支部代表委員長制を導入し、21年目を迎えます。当時、支部代表委員長制を導入した背景は、環境が大きく変化することに伴

い、現場の問題も当時増加しつつありました。現場で解決できる問題をタイムリーに支部の労使で話し合い解決していくことが必要になってきたからです。この考え方は現在も変わりません。来期は、「より支部に、より組合員に近づき、共に前に進んでいける活動」を通じて、自分たちの組合づくりを、中央・ゾーン・ブロックの全役員が一致団結して、創り上げていきたいと思ひます。また、私たちは、これまでのGMSスタイルの商売から脱却し、生き残りをかけた新たなビジネスモデルを再構築していかなければなりません。そのためには、過去の延長線上の仕事の仕方やこれまでの常識を否定し、新しい発想や生産性を考慮した働き方が求められます。時代の荒波を乗り越え「自分たちを守る組織の結束力」が必要不可欠です。一人ひとりが自分の仕事に向き合う姿勢や考え方、そして決断力と実行力など、マンパワーを発揮する組織の団結力を高めていく活動に挑戦していきます。

【対話活動】～「社会・経営・現場」とのコミュニケーションの充実

これらの活動を推進していくにあたり、社会・経営・現場との対話は欠かせません。相互扶助の観点から、上部団体と連携し、ボランティア活動や環境問題に視点をのいた啓発運動など、「社会との対話」の充実を図っていきます。また、環境変化に伴う、様々な課題に対峙していくために「経営との対話」を重要視し、事前労使協議を定例的に実施してきました。労使の話し合いのベースは「組合員の参加・参画」と「組合員の声」です。健全な労使関係を堅持していくためには、持続的な組織力を誇示していく必要があります。活動への参加・参画は他でもない、自分自身のためでもあるという事も忘れてはならない点です。労働組合が組合員の「参加と参画」に拘りを持つのは、「組織力を誇示する事が、組織を守る事につながる」からです。これからの時代は、戦後の労使慣行でもある「生産性三原則」をこれまで以上に意識し、それぞれが「対立と調和」を持ちながら、バランスを保つことが「健全な労使関係づくり」には欠かせません。力の等しい労使が、互いに対立しつつ、協調していくことで、好ましい労使関係が生まれ、企業の発展と組合員の幸せにつながる明るい未来が拓けるのだと思ひます。そして、環境変化は、現場の新たな課題を発生させます。その課題の一つひとつ改善・解決していくために「現場との対話」は欠かせません。しかし、実態は「労働組合を身近に感じない」「労働組合は何をしているか判らない」という意見が出てきます。「話さなければ思いは伝わらない」「伝えたい事は繰り返し話す必要がある」という事実を起点に職場内でのコミュニケーションの充実化を図っていきます。

【唯一無二】～未来を創造できる強い組織へ～

最後に、私たちIYは、2015年度に上場以来初の営業赤字となり、それ以降、経営基盤の建て直しや店舗の構造改革に取り組んできました。しかし、一定の効果を得たものの、安定的な経営基盤づくりに至っていません。またこれ以外にも、環境変化に対応仕切れていない生産性の課題や就業上の課題などが山積しています。今、IYが取り組むべき事は、「安定的な利益を生み出せる経営基盤づくり」と「これを支える人財を守り育てること」です。今期は、労働組合結成50周年です。これからも、厳しい環境や大きな変化が続くと思ひますが、皆さんと共に、「未来を創造できる強い組織」を創っていききたいと思ひます。2020年度も引き続き、よろしくお願ひいたします。



第50回 定期中央大会開催

2019年10月4日(金)、東天紅上野本店にて「第50回定期中央大会」を開催し、イトーヨーカドー労働組合は、結成50周年を迎えました。

今大会では「2020年度活動方針」や「イトーヨーカドー労働組合結成50周年記念事業・行事」「2020年度予算およびパンプキンクラブ予算」などの7つの議案に対し、161名の代議員と審議を行い、全議案が満場一致で承認されました。

今年度は、「未来への創造～魅力ある、社会的価値創造企業を目指して～」というスローガンのもと、「未来を創造していくための健全なる3つの基盤」を基軸に活動を推進していきます。また、労働組合結成当時から変わることのない「原点」を大切に、「問題意識を持った活動」「魅力や価値を生み出す活動」「組合員に近づく活動」に取り組んでいきます。労働組合結成50周年を機に、「心機一転、新たなイトーヨーカドー労働組合を結成」していく気持ちで活動を推進していきましょう。

議案事項

- 第1号議案
「2020年度活動方針」
- 第2号議案
「イトーヨーカドー労働組合結成50周年事業・行事」
- 第3号議案
「2020年度予算およびパンプキンクラブ予算」
- 第4号議案
「2020年度中央役員選出」
- 第5号議案
「特別中央執行委員の選出」
- 第6号議案
「参与の任命」
- 第7号議案
「功労者表彰」

三枝社長、渡辺東京都支部長あいさつ



イトーヨーカ堂
代表取締役社長 三枝 富博氏

三枝社長にお忙しい中、定期中央大会にお越しいただき、会社の成長に向けて労使協働で取り組んでいくことの重要性について、ごあいさつをいただきました。

イトーヨーカドー労働組合第50回定期中央大会が、このように盛大に開催されます事を心よりお慶び申し上げます。また、日頃は日々の仕事をしながら、労働組合の活動に取り組まれている事に敬意を表します。

さて、7月1日発売の週刊ダイヤモンドの中で、イトーヨーカ堂の改革が迷走しているという記事が掲載されました。地方店舗の分社化という記事が出た事で、特に地方店舗で働く方達にご心配と不安をお掛けしました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。しかし、イトーヨーカ堂は今、大きな問題を抱えている事も事実であり、抱える課題を1つひとつ明確にしながら解決していける体質に会社を変えていかなければなりません。意図せず、今回の記事が掲載された事は大変、不本意であり残念でもあります。

本日は組合の代表であり、リーダーでもある皆さんに、今、イトーヨーカ堂が抱える課題と今後の成長戦略についてお話をさせていただきます。イトーヨーカ堂は、この過去5年、企業活動全体での利益を得ることが出来ず、純利益と呼ばれる最終利益が赤字となっています。

営業利益は、昨年度はCT億円の黒字、一昨年度はSI億円の黒字でした。営業利益が黒字であれば良いのではと思われるかもしれませんが、投資家を含めた株主などのステークホルダーからは、純利益が出ていなければ評価していただけません。イトーヨーカ堂は5年連続で赤字経営の会社であるという事を認識しなければならないと思います。

営業利益が黒字なのに何故、純利益は赤字なのか、その原因の1つに店舗の減損損失(特別損失)があります。ここ3年間、毎年100億を超える減損損失を計上しています。減損損失とは店舗の固定資産などの帳簿上の価値、つまり店舗が将来生み出さなければならない収益見込みが少ない為に、その差額を減損計上し店舗価値を減らしていくものです。これはすなわち会社の価値が低下していることに他なりません。この純利益を上げていく為には、営業利益を伸ばすのと同時に減損損失を減らし常に店舗の価値を上げていく事を両軸で進めていかなければなりません。

2016年より、2年半に渡り、店舗の構造改革に取り組んできました。構造改革を実施した37店舗については客数が108%と伸張、坪効率も改善し収益が高まりました。一方、改装をしていない店舗を含めた、イトーヨーカ堂全体としては売上・利益を改善する事が出来ませんでした。収益悪化はこれだけが原因ではなく様々な要素が複雑に絡んでいます。

中でも20年間、赤字が続いているライフスタイル事業部のMD、品揃えなどの問題、また地方店舗を中心とした低収益性の課題、赤字体質から脱却出来ない食品館の課題や高い販管費の課題など、早急に手を打たなければならないものばかりです。既存店の売上が現状のまま推移すると3年後の2022年には、100億を超える営業赤字になってしまい、純利益で見ると更に大きな赤字を生む事になってしまう予測が出ています。こういった課題以外にも、社員の働き方・労務構成の課題もあります。パブル崩壊後、新入社員の採用抑制をした事で、40歳未満の社員構成が著しく低く、社員の高年齢化が加速的に進んでいます。18年度末に45歳以上の構成が53%であったものが、22年度末には60%を超える状況にあります。いずれの課題も、イトーヨーカ堂の将来に多大な影響を及ぼす課題である事を認識すると同時に1つひとつ解決していかなければなりません。

これらの課題は、時間が経過すれば自然に解決するものではありません。逆に時間が経過すればするほど、より難しくなっていきます。解決していく為には全社員が、共通の課題認識を持ち、様々な解決方法を模索する事が必要で、時には大きな判断をせざるを得ないと思います。組合員の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

イトーヨーカ堂は、目に見えるものだけでなく、目に見えない素晴らしい資産・財産を持っています。一例を挙げれば、首都圏にある店舗です。多くの店舗が駅前の好立地にあり、また首都圏、地方を含めて大きな店舗面積を有しており、多くのテナント様に入っていたり、これは他社には真似出来ない貴重な財産です。この過去から受け継いだ「好立地にある優位性」や「大きな店舗面積を持つ優位性」を如何にして将来に繋げていくかという視点を持つ事が必要となってきます。また、セブンプレミアムはグループの開発商品としてお客様から素晴らしい評価を得ていますし、顔の見える野菜は全国7千の農家の方達がトレサビリティ含め、安心・安全の信頼を積み重ねています。これらの事は私たちの企業ブランドや価値であり、今後の企業成長に欠かせないものです。また、同業他社より優位にあるネットスーパーについても、これからの社会環境の変化に対応し、如何に成長戦略に結びつけるかという事を考えていかなければなりません。また、イトーヨーカ堂の成長には新規出店も必要です。利益の出せるフォーマットを確立し、出来るだけ早い時期に新規出店をしていきたいと考えています。

今、イトーヨーカ堂が抱える「経営課題の解決」と将来に向けた「成長戦略の推進」、この両方をスピード感を持って取り組んでいく事がとても重要です。問題を先送りせず経営課題に向き合い取り組んでいく事が重要です。問題を先送りして体質が悪化してからでは施策や選択の幅が狭くなっていきます。今取り組んでいかなければ、イトーヨーカ堂の未来は無いという事を共通認識として持ち取り組んでいきましょう。

また、働き方改革もたいへん重要な要素です。如何に生産性を上げるか、付加価値を生むような仕事に向き合っていくかもとても重要です。労働条件にかかわる制度の見直しについては、労働組合と様々な協議を重ねながら取り組んできました。2017年には連続休暇制度をパートナー社員まで拡大し、今年の9月からはパートナー社員の半日有給制度を導入し、年次有給休暇を取得しやすい環境を整えてきました。そして2019年3月には管理者を含むNAF社員の未取得休日の精算を行いました。また「やりがい・働きがい」のある職場環境づくりに向けた、幹部への就業ルールの遵守・就業改善に関する啓発活動を進めてきました。

また、今年より労使協働で取り組みをスタートした「改善=工夫」運動では、積極的に取り組んでいただき様々な改善行為が進んでいます。これからも従業員(組合員)の皆さんが働くことに「やりがい」を持てる環境づくりを労働組合と協議・連携を図りながら取り組んでいきます。

従業員(組合員)が、イトーヨーカ堂で働く事が誇りと思えるような企業体質、自分の子供をイトーヨーカ堂で働かせたいと思えるような会社を目指していきます。

2020年はイトーヨーカ堂が創業100周年を迎える年です。ここまで来られたのは、従業員(組合員)が思いを持って仕事に取り組んできたからです。地域のお客様の声に耳を傾け、喜んでいただける商売をしてきた従業員1人ひとりの頑張りがあります。

最後になりますが、今定期中央大会をもって石合委員長が退任をされます。長きに渡り組合活動にご尽力された事に感謝いたします。お疲れ様でした。今後もこれまでの経験を活かし、イトーヨーカ堂のために力を発揮していただきたいです。また、新体制の基、イトーヨーカドー労働組合が益々の成長・発展をされていく事を祈念して、会社を代表してのご挨拶いたします。

渡辺東京都支部長からは、労働組合の原点や基本を大切にすること、問題・課題に対して着実に行動していくことの大切さについてお話いただきました。

歴史ある50回目のイトーヨーカドー労働組合の定期中央大会にご参集の皆さまに東京都支部を代表してお祝い申し上げます。労働組合の規模や事業内容が変わっても労働組合の行動の原点は変わらず、イトーヨーカドー労働組合は結成してからの50年間、その原点や基本の理念に変わりなく今なお受け継ぎ、エクセレントユニオンとして存在しているのだと思います。

また私たちの環境は大きくそして早く変わっています。50周年を機に改めて、当事者意識を持って問題・課題を一つずつ解決していく。そのような組織体制を引き続き作っていくために、イトーヨーカドー労働組合の先輩たちが今まで続けてきた活動を今後も続け、働く環境や労働条件を守っていきましょう。



UAゼンセン 東京都支部
支部長(当時) 渡辺 理氏

2020年度活動スローガン「未来への創造」

魅力ある社会的価値を創造する企業を目指して行こう!

第1号議案「2020年度活動方針」が満場一致で承認されました。

～未来への創造～

2020年度の活動スローガンは、「未来への創造～魅力ある、社会的価値創造企業を目指して～」です。2020年度、イトーヨーカドー労働組合は結成50周年を迎えました。また、会社も創業100周年を迎える節目の年です。2020年度は「心機一転、新たなイトーヨーカドー労働組合を結成」していく気持ちで活動を推進していきます。結成と共に活動を進めていくうえで大切にできた「綱領」（会社でいう「社是」）を今一度振り返り、労働組合結成からの基本的な活動の考え方を踏まえ、新たな時代を築いていきたいと思えます。「綱領」の意味を踏まえ、今私たちに必要なことは、組合員（従業員）一人ひとりが、環境変化や置かれた立場・状況を正しく捉え、認識し、行動を起こすことです。会社や労働組合が何かをしてくれるのではなく、私たち一人ひとりが主体性を持ち、目標を持って業務に取り組むことが必要です。この目まぐるしく変化する時代を乗り越えていくことのできる「未来を創造できる強い組織づくり」を目指していきます。

～魅力ある、社会的価値創造企業～

魅力ある、社会的価値創造企業の考え方についてですが、現在、「社会的価値創造」は、「経済的価値創出」と同じように重視される時代となっています。企業には、利益を追求するだけでなく、企業に関わるあらゆるステークホルダー（利害関係者）の求めに応じる責任を果たさなければなりません。法令遵守を心掛けることは当然ですが、それだけでなく、企業は自発的活動として社会的責任（CSR）を担うことが求められています。今後、私たち組合員（従業員）に求められるものは、経済的価値と社会的価値のベクトルの一致を図ることです。企業の組織行動の点検、検証、目標の設定を労使で行うとともに、組合員一人ひとりが、社会的価値を高めるためのイトーヨーカドーの未来を創造していくための取り組みが必要となります。



中央執行書記長兼中央会計
千代田 祐樹

「イトーヨーカドー労働組合 綱領」

一、私たちは、健全中立なる民主的組織を確立し、労働生活諸条件の向上と文化生活の増進をはかります。

私たちは完全に自主的な立場に立ち、他から影響を受けることなく民主的な方法で自ら問題の解決、改善の取り組みをしています。自ら考え、悩み、みんなで決定し、実行していく、これが基本です。

一、私たちは、全組合員の世論を集め、これを経営に反映させることを推進いたします。

労働組合は私たち自身が主役の場です。日頃、感じていることを会社にも伝え、私たちの手で希望を実現していくことが大切です。

一、私たちは、要求の実現において、経営者との利害対立には団体交渉による解決を重視して行動します。

私たちは労使のパートナーシップを基盤とする話し合いの解決が最も良い方法と考えています。要求実現のための労使交渉の場だけでなく、問題の解決や、要求の実現のため各種の労使専門委員会を設置するなど、日頃の労使の話し合いを大切にしています。

一、私たちは、技術の開発、識見の啓発に努め、もって人格の向上をはかります。

私たちはイトーヨーカドー労働組合の組合員であると同時に社員ですが、それ以前に社会人です。私たちは社会の中での役割を認識しながら自らの見識を高めその役割を果たしていきます。



「モノ」から「コト」への転換の時代を踏まえ、某自動車メーカーでは、「自動車メーカーからモビリティカンパニーへ」とデジタル革新における産業枠の変革、社会的価値の創造に挑戦しています。イトーヨーカドーも他人事でなく、大きな変革を求められています。利益を追求し、持続可能な成長・発展を成し遂げる営業活動中心の経済的価値の創出だけでなく、社会から必要とされる魅力ある企業をつくるためにも健全な労使関係のもと、事前協議を通じた「協創力（＝連携・協働で新たな価値を生み出すことのできる力）」を高め、「社会的価値創造企業」を目指していきます。

なぜ、私たちが社会的価値創造企業を目指していくのか、その前提には「世界情勢」と「国内情勢」があります。

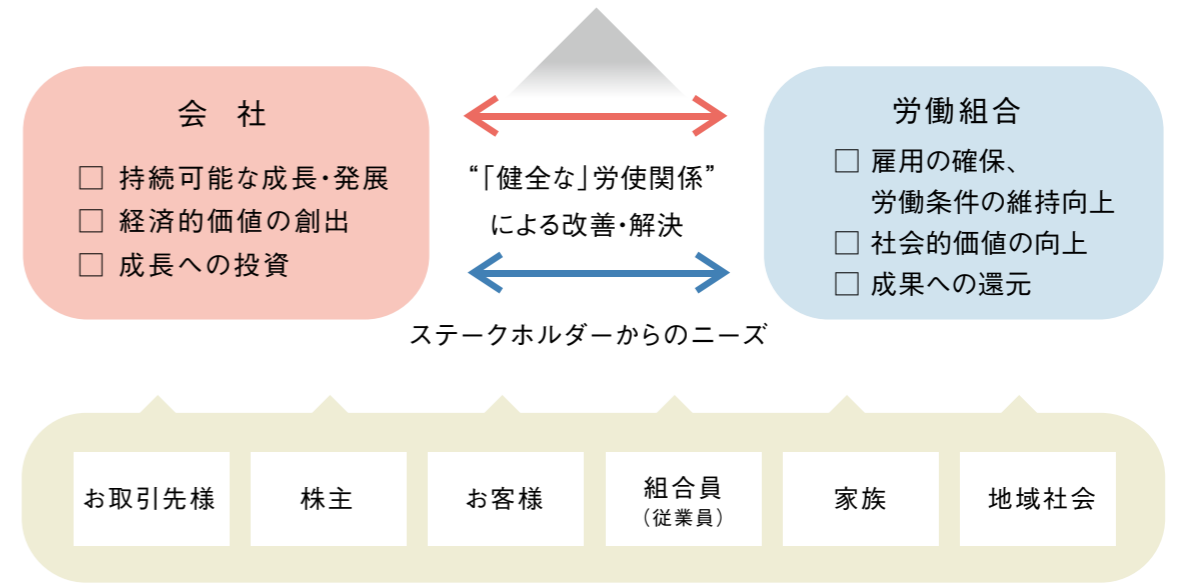
世界情勢では、「貧困」「地球温暖化」「資源不足」「食糧難」などの社会的な問題が発生しています。そのために「SDGs」による地球環境変化に対応する「持

続可能な開発目標」を掲げ、各国が取り組んでいます。また、AI、IoTなどからなる「第4次産業革命」などの大きな産業構造の変化が起きています。

国内情勢では、「社会保障問題」「人手不足問題」「環境・災害問題」「市場縮小」など国内における社会環境問題や国際問題などを踏まえ、日本は「Society 5.0」を掲げ、経済発展と社会的課題の解決の両立を目指しています。

これらの世界情勢、国内情勢を踏まえた問題は、我々も同じであり、その対応が求められています。非常に大きな問題ですが、これら一つひとつの環境変化をきちんと捉え、対応していくことが、企業労使で求められています。現在、現場の問題・課題も多くあり、IYを見る外部からの目が非常に厳しくなっているのが事実です。今までは、営業活動を軸に取り組んできましたが、ここからは対外部、ステークホルダー（利害関係者）のニーズにも対応していかなければなりません。これらを踏まえ、「未来への創造～魅力ある、社会的価値創造企業を目指して～」取り組んでいきます。

IYのめざす姿「魅力ある、社会的価値創造企業」



第1号議案「2020年度活動方針」に対する意見・回答



武蔵境支部 支部代表委員長
高橋 慎

【意見】 本日の大会を迎えるにあたって支部大会を開催し、現状の店の問題（労働時間や人員不足、応援の問題等）についての意見が出ました。組合結成50周年記念事業もあり、活動に協力していきたいが、店の問題もあるので、組合本部として現実の問題に目を背けずに、解決に向けた対応をお願いしたい。

【回答】 他の支部の支部大会の意見や先日開催した全国支部代表委員長会議でも同様の意見を頂いている。就業や職場環境など、様々な問題が山積している。解決のために労使で協議をしていく。より多くの組合員の声を集め、私たち皆で対応を考えていきたい。そのために執行部一同が気を引き締めて、組合員に「近づく活動」に取り組んでいく。

「未来への創造」に向けた3つの基盤

魅力ある、社会的価値創造企業を目指すために、今年度は3つの基盤を主軸に活動していきます。



健全な「経営基盤」

組合員一人ひとりが常に「問題意識を持った活動」に取り組みます。

労使関係・経営参画に関する取り組み

- **労使協議会、労使懇談会の実践**
座談会や日頃挙がっている組合員の声(問題・課題)の改善・解決のため、労使協議会・懇談会にて店・本部の経営幹部と「共有⇒協議⇒解決⇒フィードバック」を行っています。
- **労務管理の徹底**
労働法制の見直しや規制が強化される中、長時間労働の是正や多様化する働き方への対応に向け労使で法令遵守に向けた労務管理の徹底を行います。
- **人事処遇制度の運用点検・見直し**
多様化する人材の成長と共創を目指し、「企業の成長」「利益の追求」「生産性の向上」を図るために、春季労働条件交渉、労使専門委員会にて、人事諸制度の運用点検・見直しを行います。



健全な「組織基盤」

対話活動を大切に、「組合員に近づく活動」に取り組みます。

会議・教育・情報宣伝・イベント・交流会・座談会に関する取り組み

- **お世話活動、オルグ活動の強化・活性化**
一支部一組合の確立に向け、組合役員と組合員との対話を大切にしたお世話活動、オルグ活動を強化・活性化し、支部活動の推進を図ります。
- **階層別研修会の開催**
労働組合の基礎知識の習得、活動方針の周知徹底を目的に組合活動の役割に応じた教育研修を開催し、組合活動の基盤づくり、組織体制の確立、そして、人材の育成に努めます。
- **支部イベント・交流会開催**
組合員(従業員)のコミュニケーションの充実と支部の組織体制構築を目的に支部イベント・交流会を開催します。
- **支部・部門・階層別座談会の開催**
組合員(従業員)の声の集約と魅力ある職場環境・お店づくりのための意見交換の場として、開催単位を明確にし、座談会(話し合いの場)を開催します。
- **情報宣伝活動の強化と在り方の検討・見直し**
労働組合の活動報告ならびに組合活動の魅力を伝えるために、情報宣伝活動に取り組みます。また、より多くの組合員に活動を伝えるための新たな情報宣伝活動を創出します。



健全な「生活基盤」

より豊かで安心な暮らしの実現に向け、「魅力や価値を生み出す活動」に取り組みます。

福利厚生、社会・地域貢献、政治活動に関する取り組み

- **福利厚生の充実**
様々なライフステージ(入社、結婚、出産、育児、介護、退職等)に合わせたトータルライフサポートの実現に向け、労働組合としてのグループ総合福祉(パンプキン事業を含む)の点検・協議・充実を行います。
- **社会貢献・地域貢献の取り組み強化**
社会的価値創造を目指し、IVY活動を軸とした社会貢献・地域貢献に取り組んでいきます。
- **上部団体との連携**
上部団体である「連合」「UAゼンセン」「セブン&アイグループ労働組合連合会」また、「友好労組」との連携強化によるより良い生活基盤の構築に取り組みます。
- **政治活動の推進**
各級の議員と連携した「流通産業の健全な発展と成長」「組合員の豊かな暮らしと幸せ実現」に向けて、政治活動の日常化を図っていきます。

労働組合結成50周年!

★ 将来に向けた新たな事業、行事や活動に挑戦します!

イトーヨーカドー労働組合は、1970年の結成以来、あらゆるステークホルダー(利害関係者)に向けて、その時代の環境変化を捉えた社会的価値の向上に努めてきました。これからの未来も新たな価値の創造に向け、活動に取り組んでいきます。

周年事業のこれまでの歩み

- 1970 労働組合結成**
10月22日組合員数約2,200名によって労働組合を結成しました。
- 1975 「福祉カンパ活動」スタート**
私達自身の労働条件の向上だけでなく、さらに外に目を向け始め、現在のボランティア活動の糧を築きました。
- 1980 「中央経営協議会」スタート**
会社との信頼関係を深め、情報交換の場として中央経営協議会をスタート。これからのIVYの展望について話し合うなど、労働組合が経営に対して意見・提案する風土が生まれました。
- 1990 「福利厚生サービス“パンプキン事業”」スタート**
「仕事時間以外の余暇や生活時間を充実させたい」との強いニーズから、宿泊施設やスポーツ施設、レクリエーション関連利用などの福利厚生サービスをプラスアルファライフの充実に向け、スタートしました。
- 1995 「25周年」 「IVYフェア '95」開催**
組合員とご家族にボランティア活動を強くアピールしました。ここで集めた募金約20万ドルは、ユニセフを通じてネパールやベトナムの子どものための国際支援として使われました。その後、国際ボランティア活動を発展させ、ラオスに中学校を建設しました。
- 2000 「30周年」 「IVファミリー大感謝祭」開催**
「WE LOVE IV〜もっと好きに、そして誇りの持てるIVにしていこう〜」をテーマにIVで働く社員・家族・親族と多くのお客様に支えられているIVを私達自身が積極的に信頼を築いていく活動として、記念イベントを開催しました。さらに老後の不安を取り除き、安心して暮らせる環境づくりの一環として、定年退職後サポート「パンプキンくらぶ」を立ち上げました。
- 2010 「40周年」 「IV ISM運動、労働組合ホームページ」スタート**
過去のIVの良さであり、商売をするうえで大切にしてきた「挨拶・躰・身だしなみ」の組織風土を復活させる取り組みとして「IV ISM運動」をスタートしました。また、組合員全員がスピーディーに効率よく情報共有できる体制構築のために労働組合ホームページ「チャネル☆IV」を立ち上げました。
- 2020 「50周年」 「SANKA」**
Web! SANKA!



初代中央執行委員長 岩国 修一
二代目中央執行委員長 嶋 昭彦
三代目中央執行委員長 太田 喜明
四代目中央執行委員長 川 茂夫
五代目中央執行委員長 柳澤 光美
六代目中央執行委員長 近藤 悦啓
七代目中央執行委員長 河田 靖彦
八代目中央執行委員長 石合 弘二

50周年記念事業・行事コンセプト「未来・創造・IY」

第2号議案イトヨーカドー労働組合50周年事業・行事は、「未来・創造・IY」をコンセプトに、これまでの50年の歴史を振り返り、支え育ててくれた歴史すべてに感謝「=感謝(ThanksPlan)」、2020年度を皮切りに将来に向けた新たなチャレンジをしていく活動「=5つの挑戦(Challenge Plan)」にIYの未来を創造し、取り組んでいきます。

労働組合結成50周年記念事業・行事スケジュール *50周年記念事業・行事実行委員会を設置し、事業・行事を行っていきます。

感謝 / THANKS PLAN

「記念式典」の開催 内外部のお世話になった方々にこれまでの活動を報告し、感謝を伝える機会として式典を開催し、50周年を機に新たなイメージづくりに取り組みます

記念事業・行事	内容	対象者	実施時期(予定)
I.ブランディング・ムービー 「感謝」の物語を1本のブランディング・ムービーにとりまとめ新しい労働組合のイメージづくりに取り組みます。	II.アニバーサリー・ブック 50th 支え育ててくれたすべての歴史への「感謝」の気持ちを一つの冊子にまとめ、歴史を学び未来に繋げるきっかけとします。	III.労働組合「ロゴ」 歴史に感謝し、未来を創造するシンボルとしてロゴマークを組合員から公募し、労働組合のイメージ刷新に取り組みます。	
記念式典 *労使対象	ゾーン労使懇談会にて、これまでの活動に感謝を伝える機会、そして、これからより良い健全な労使関係構築のための場として、記念式典を開催。	店・本部幹部、組合役員	日程調整中
記念式典 *お取引先様、上部団体、友好労組対象	内外部のお世話になった方々にこれまでの活動を報告し、感謝を伝える機会として、式典を開催。	お取引先様、上部団体、友好労組	2020年5月
ブランディング・ムービー	「感謝」の物語を1本のブランディング・ムービーに取りまとめ、新しい労働組合のイメージづくりに取り組む。	全組合員	2020年5月
アニバーサリー・ブック 50th 組合員配布用・支部保管用	支え育ててくれたすべての歴史への「感謝」の気持ちを一つの冊子にまとめ、歴史を学び、未来に繋げるきっかけとする。	全組合員	2020年5月
労働組合ロゴ	未来を創造するシンボルとして組合員よりロゴデザインを公募し、労働組合のロゴを作成。	全組合員	【公募】2020年1月~2月 【発表】2020年6月

挑戦 / CHALLENGE PLAN

組織	社会	仕事
I.組織点検活動「Thanks & Challenge 50th」 ゾーン単位で記念イベントを開催し、同じ目的を成し遂げるための組織の在り方、重要性を個々が実感できる機会の創出をしていきます。	II.社会的価値創造運動「グローバルIVY」 人のつながりや助け合うことを基盤に「持続可能で安心できる地域・社会」をつくるため、自発的な社会的価値創造運動に取り組み企業価値向上に繋げていきます。	III.生産性向上運動「改善=工夫」運動キャンペーン2020 「改善=工夫」運動キャンペーン2020を実施し、個人が持つ能力(発想力・行動力)を最大限に引き出し、環境変化に対応した「個の力」を高める取り組みをしていきます。
IV.生活・福利厚生「ファミリア・ライフサポート」 組合員の「健康の増進・生活の充実」を目的とし「自助・公助・共助」のバランス、組合員のニーズ、環境変化を踏まえ「一番身近な手助け」となる新たな事業設計に取り組みます。	V.未来創造「IY VISION 2025」 組合員の「雇用の確保と労働条件の維持向上」のため、2020中期ビジョンの成果と課題、組合員意識調査の結果などを踏まえ、労働組合としての新たなビジョンの策定に取り組みます。	

記念事業・行事	内容	対象者	実施時期(予定)
Thanks & Challenge 50th	ゾーン単位で50周年記念イベントを企画立案、開催し、同じ目的を成し遂げるための組織の在り方、重要性を個々が実感できる機会を創出。	全組合員(全従業員)	2020年6月
グローバルIVY	○働く社会・地域との関わりを深める「IVYイベント(社会・地域貢献活動)」の計画立案・実行。 ○セブン&アイグループ労働組合連合会と連携した社会貢献活動の一環としてエコキャップ回収運動「OneCap-OneSmile」を実施し、ワクチンを寄贈。	全組合員(全従業員)	年2回
「改善=工夫」運動キャンペーン2020	生産性・業績向上に関連するいくつかのキャンペーンコースを設定し、個人・チームで募集・審査を行い、企業貢献度の高い取り組みの表彰を行う。優秀な取り組みについては、全社の取り組みに繋げていく。	全組合員(全従業員)	2020年1~2月
ファミリア・ライフサポート	○パンキンのサービス事業内容を再構築し、環境変化と組合員のニーズに対応したトータルライフサポートシステムの構築。 ○共済会事業内容を点検し、将来を見据えたサービスの改廃、新規事業含め見直しを実施。 ○IYプレミアムメンバーズの会員拡大とサービス内容の充実。	全組合員	2020年度中
IY VISION 2025	2020中期ビジョンの成果と課題、組合員意識調査の結果等を踏まえ、VISION策定委員会を設置し、2021年~2025年までの新たなビジョンを策定。	全組合員	2020年度中

2020年度中央役員が決定!

第4号議案 2020年度中央役員選出にて、48名の中央役員が選出されました。今年度もよろしくお願いいたします。

中央執行委員長 渡邊 健志 労働組合(専従)	岡山 明日菜 労働組合(専従) 鬼沢 克彦 SV支部(食品担当CSV)	橋本 友 屯田支部(ホーム&キッチンM) 服部 正之 能見台支部(商品管理M)
中央執行副委員長 中井 啓二 労働組合(専従) 佐藤 洋一 労働組合(専従)	岸田 康史 日立支部(子供ワールドM) 小松原 勇二 武蔵境支部(子供ワールドM) 小室 渚人 深谷支部(デイリー食品M)	濱中 洋平 古淵支部(ライフスタイル統括M) 平石 実 大宮宮原支部(惣菜M) 平山 孝司 SV支部(食品担当SV)
中央執行書記長兼中央会計 千代田 祐樹 労働組合(専従)	坂井 剛 川崎港町支部(青果M) 阪井 夏樹 北見支部(青果M)	福井 伸也 営業・管理支部(ネット通販部M) 福井 裕二 葛西支部(デイリー食品M) 福島 裕美 甲子園支部(サービスカウンターチーフ)
中央執行書記次長 中川 勇樹 労働組合(専従)	佐藤 誠 国領支部(ネットM) 佐藤 公則 ライフスタイル衣料支部(婦人衣料部MD)	福井 裕美 甲子園支部(サービスカウンターチーフ) 牧野 徳人 セブン&アイ支部(総務部)
中央執行委員(五十音順) 安部 喜雄 SV支部(衣料担当SV) 池田 宜生 札幌支部(加工食品M) 井口 隆之 木場支部(加工食品M) 岩本 昌秀 市原支部(婦人担当)	関 洋亮 営業・管理支部(インバウンド推進部) 瀧澤 めぐみ 労働組合(専従) 田中 大樹 労働組合(専従)	松川 将也 労働組合(専従) 丸山 亮人 労働組合(専従) 道副 友輔 ライフスタイル住居支部(ヘルス&ビューティー部MD)
宇野 典孝 労働組合(専従) 大嶋 光幸 営業・管理支部(RE部M) 大西 宏司 柳津支部(デイリー食品M) 大橋 憲二 アリオ柏支部(ホーム&キッチンM) 大場 ももこ 上尾駅前支部(ライフスタイル統括M)	寺田 弘美 あべの支部(サービスカウンターチーフ) 永野 健太 食品館新宿富久支部(精肉M) 南原 貴志 鷺宮支部(子供ワールドM) 新岡 啓通 藤沢支部(惣菜M) 二宮 崇 ライフスタイル衣料支部(ライフスタイル事業部生産管理担当)	毛頭 佳子 明石支部(シスター) 中央会計監査 下田 広志 専門店会事務局M 鷹屋敷 一久 セブンカルチャーネットワークM



石合前中央執行委員長が、特別中央執行委員に選出されました!

第5号議案 特別中央執行委員の選出も満場一致で承認されました。これからは、特別中央執行委員として組合活動のサポートをお願いします。



石合 弘二
セブン&アイグループ
労働組合連合会 顧問

1999年10月 イトヨーカドー労働組合 中央執行委員
 2007年10月 イトヨーカドー労働組合 中央執行書記長
 2012年10月 イトヨーカドー労働組合 中央執行副委員長
 2013年10月 イトヨーカドー労働組合 中央執行委員長
 セブン&アイグループ労働組合連合会 会長
 UAゼンセン流通部門 副部門長

私たちの活動をサポートしていただく5名の参与が任命されました!

第6号議案 参与の任命にて5名の方が信任されました。



谷津 正信
UAゼンセン総務局
総務局長 常任中央執行委員



千頭 洋一
UAゼンセン広報局
部長



鈴木 佳祐
UAゼンセン流通部門
執行委員



小鷲 良平
セブン&アイグループ
労働組合連合会 事務局長



竹内 宏子
セブン&アイグループ
労働組合連合会 事務局次長

82名の功労者を表彰！

組合員の先頭に立ってご活躍された皆さんに敬意を表し、表彰状・記念品が授与されました。今後もよろしくお願いします。

特別功労者表彰【20年】

石合 弘二（労働組合）／高橋 尚子（共済会）

特別功労者表彰【15年】

安部 喜雄（スーパーバイザー部）／立川 茂（大宮）／渡邊 昌也（尾張旭）

特別功労者表彰【10年】

今村 浩（武蔵小杉駅前）／大角 哲平（営業・管理）／後藤 憲彦（琴似）／阪西 和文（明石）／長棟 圭祐（ライフスタイル住居）／福井 伸也（営業・管理）／見上 みよ子（流山）／和賀 さやか（青森）

特別功労者表彰【5年】

赤尾 悦子（小山）／荒井 明彦（鷺宮）／井上 梨恵（橋本）／宇野 典孝（労働組合）／遠藤 高輝（ライフスタイル住居）／太田 圭一（帯広）／貝吹 貴之（大井町）／粕谷 大輔（営業・管理）／梶谷 昌子（加古川）／阪井 夏樹（北見）／佐藤 充（甲府昭和）／眞井 龍太郎（四街道）／瀬下 雅宏（拜島）／瀧澤 めぐみ（労働組合）／鶴子 智之（横浜別所）／戸田 茂克（大宮）／二宮 崇（ライフスタイル衣料）／福島 裕美（甲子園）／牧 剛史（食品館王子）／間正 秀敬（我孫子南口）／松浦 綾子（綾瀬）／谷嶋 信一（松戸）／柳 健二郎（宇都宮）／依田 勇司（沼津）／渡邊 瑛（草加）



功労者表彰【2年】

安達 雅行（深谷）／阿部 真由美（葛西）／荒木 秀栄（鶴見）／伊東 将司（食品館三ノ輪）／伊藤 美穂（福島）／岩本 敏雄（桂台）／内山 聡（加古川）／梅谷 岳輝（セブン＆アイ）／大木 秀敏（武蔵小杉）／大谷 真也（小岩）／甲地 宏樹（綾瀬）／香取 光夫（武蔵小金井）／鎌方 麻古（三郷）／北村 淳（流山）／久芳 仁（八尾）／幸坂 俊昭（長野）／古賀 英久（東村山）／齋藤 優（食品館王子）／塩川 勇司（和光）／下郷 麻紀子（食品館鎌ヶ谷）／庄子 和彦（木場）／杉崎 隆（市原）／鈴木 浩一（伊勢崎）／鈴木 隆正（四街道）／高井 悠介（茅ヶ崎）／竹林裕行（松戸）／立石 陽（知多）／筑紫 泰士（ザ・ブライズせんげん台）／中島 弘史（加古川）／西島 昭次（武蔵小金井）／西山 英貴（上板橋）／蓮見 卓也（赤羽）／濱中 洋平（古淵）／原 宏（春日部）／松林 孝憲（日立）／三浦 佳子（鶴見）／溝下 宏明（アリオ西新井）／宮島 隆（小山）／向原 康範（多摩センター）／森田 由子（あべの）／湧口 潤（長野）／依田 栄一（南松本）／和田 扶友樹（五所川原）

※（ ）内は2019年10月4日（金）時点の所属

退任者あいさつ

長年、労働組合の活動に携わっていただいた5名の方が、今年度退任となりました。皆さんの新たなステージでの活躍を期待しています。ありがとうございました。



石合 弘二

1999年10月 中央執行委員
2007年10月 中央執行書記長
2012年10月 中央執行副委員長
2013年10月 中央執行委員長
セブン&アイグループ労働組合連合会 会長

私はこの節目を機に「新たな体制・活動への期待」をもって、中央執行委員長を退任することにいたしました。退任後は、少しの期間「会社の構造改革」に伴い、整理・対応を行ったうえで、職制に戻ります。

1991年10月に中央執行委員に立候補し、2013年10月からは中央執行委員長として計20年もの間、労働組合の活動に携わることが出来ました。この激動の時代、共に活動を支えていただいた組合役員・組合員の皆さんへの感謝と共に、「組合経験を踏まえて今想う事」を少しでもお伝えし、最後の挨拶に代えさせていただきます。

会社は営業活動を通じて従業員の雇用・生活を守り、労働組合はそのことがなされているかのチェック機能を果たすと同時に、一人ひとりが社員としての義務を果たさなければなりません。

この50年もの間、労働組合が大切にしてきたことは、生産性三原則（＝雇用の安定確保、事前労使協議制・結果得た利益の公正な分配）をベースとした「潤れた井戸から水は汲めない」という考えです。

会社が持続的に成長し、私たちが求める生活・労働諸条件を向上させるためには、その源泉となる「利益」を適正に上げ続ける他ありません。過去とは明らかにその難易度が高まっているのは事実です。GMSという業態自体の価値、ホールディングスやステークホルダーからの評価、人口減少が進む地方店を中心とした収益課題、

競合との差別化を踏まえた商品開発力、拡大均衡と販管費の適正なバランス、ルールの遵守と生産性課題、人材確保と労働意欲の向上、AIやIoTといった第4次産業革命への対応力、大規模自然災害などへの危機管理対策、CSRやガバナンス体制の強化など、数えれば切りがない多くの課題に手を打っていかねば生き残れない時代です。この難局は、あらゆる機会を通じた労使の惜しみない話し合い（＝事前協議）と協働の取り組み（＝生産性向上運動）によってしか乗り越えていくことができないと実感しています。

一つ目の事前協議にあたって必要なのは、相互理解と尊重をベースとした労使の信頼関係です。お互いの遠慮は時に解決を遅らせる事になりかねません。利害が一致している企業別労使にその必要はないと考えます。起きていて問題をしっかりと表に出して、その本質を見極め、先見性を踏まえた建設的な話し合いをこれからも大切にしていきたいと思います。

二つ目の再建途上にある生産性向上運動は、過去の発想ややり方を否定することです。様々な問題を自分事としてとらえることが出来れば、新しい発想でチャレンジする力が生まれます。そして、目標に向かってやり抜く風土を醸成していきたいと思っています。

最後に、私にとっての労働組合は、四半世紀近く身を置かせていただいた大切な組織であり、この経験は何よりも代え難いものとなりました。改めて多くの現役・OB・OGの組合役員・組合員の皆さんのお蔭と心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



福本 良介

2006年11月 八尾支部 支部代表委員長
2007年 9月 中央執行委員
2010年 9月 参与（UIゼンセン同盟流通部会執行委員）
2012年 9月 参与（UAゼンセン流通部門執行委員）
2014年10月 中央執行委員
2015年10月 中央執行副委員長
2016年10月 中央執行副委員長
セブン&アイグループ労働組合連合会 事務局次長

2017年10月 参与（セブン&アイグループ労働組合連合会 事務局次長）

労働組合という「組織」の大切さを強く感じた12年間となりました。組織は人と人のつながりであり、そこに「信頼」「絆」「団結力」が重要だという事を活動を通じて実感しました。特に7月の参院選では労働組合の組織力を改めて示すことができました。これからも「誰のための・何のための活動なのか」を役員が常に考えながら活動を進めていただき、組織が更に強くなっていくことを期待しております。

私自身は職制に戻りますが、組合で学んだ「人」を基軸にした仕事の仕方を忘れずに、「対話」を通じて「仲間」を増やしなが、会社・お店を盛り上げていきたいと思います。

皆さんに支えられながら、12年間の組合活動を務めることができましたことに心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



伊藤 真久

2012年 9月 綾瀬支部 支部代表委員長
2013年10月 ブロック長
2014年10月 中央執行委員

労働組合との出会いは、8年前に支部副代表委員長となったときからで、その後支部代表委員長、ブロック長、中央執行委員を務めました。通常の活動はもちろん、多くの各研修会等を経験させていただきました。また、多くの方々との出会いは何事にも代え難い私の財産となりました。これからも組合活動に参加・参画していきたいと思ひます。ありがとうございました。



竹井 佑季子

2013年5月 ザ・ブライズ滝山支部 支部代表委員長
2014年10月 中央執行委員

私が組合活動に携わるきっかけとなったのは、当時の支部で中央執行委員をされていた方との出会いでした。活動に参加し始めて、その後支部代表委員長、中央執行委員と約5年間経験させていただきました。組合活動を通じ、多くの出会い、学んだことは貴重な経験となりました。中央執行委員の役割からは離れますが、今後も一組合員として皆さんと共に活動に取り組んでいきたいと思ひます。ありがとうございました。



山下 綾子

2018年10月 中央執行委員

1年という短い期間でしたが、中央執行委員として携わらせていただきました。働きやすい環境づくりを実現するためには活動を理解し、みんなで考え、話し合い、解決させることが大切であると感じました。今年度は労働組合結成50周年と大きな節目を迎えますが、組合員だけでなく、イトーヨーカ堂で働く従業員全員でより良い環境に出来るように頑張っていきたいと思ひます。ありがとうございました。



2020年度の活動に向けてブロック長、フィールド・パートナー専門委員の決意表明！



粕谷 大輔

営業・管理ブロック長
(営業・管理支部)

ブロック長を代表して、粕谷新ブロック長より力強い決意表明がありました！

私は、6年間営業・管理支部の支部代表委員長として活動に取り組んできました。営業・管理支部は、四ツ谷本部の商品部を除くほとんどの部署が所属する支部です。そんな環境の中でこだわったのは多くの組合員の参加です。今期は、様々な部門が交流を図ることを目的に、営業・管理支部全部門合同の支部イベントを開催しました。こうした場をしっかりと設けていくことが声の挙がりやすい環境につながり、よりよいIYを創ることに繋がっていくと考えています。

2020年度の活動スローガンは「未来への創造」です。そして、イトーヨーカドー労働組合は結成50周年を迎えます。そうした中で私たちブロック長に求められるものは、ブロックの支部活動を推進するために活発なコミュニケーションを取り、活動を共に行って、信頼関係を築き「組合員に近づき、魅力や価値のある活動」、健全な「組織基盤」の確立を図っていくことです。

組合結成50周年、会社創業100周年を迎え、これからのIYの未来を創造していくのは今ここに集まっている私たち一人ひとりでです。未来を明るくものにするために、それぞれの立場・役割をしっかりと果たし、活動を進めていきましょう！

現場で活躍しているフィールド・パートナー専門委員を代表して、安城支部の福井さんから熱いメッセージをいただきました！

私がパートナー専門委員になって初めて取り組んだ活動は、パートナーActionでした。パートナーActionでは、自店だけでなく、他店で働くパートナー組合員との交流を深めてきました。この活動を通じて職場の中にある様々な問題・課題を改善するため、現場で働く「仲間の声」を集め、より良い職場環境づくりに取り組んできました。今年度の活動方針となっている「未来への創造」～魅力ある、社会的価値創造企業～を目指すには、「組合員に近づく活動」が必要です。そのためにも、地域のフィールド・パートナー組合員と連携し、これからも「仲間の声」を大切に、自ら率先して活動に取り組んでいきます。組合員の皆さんが、イトーヨーカドー労働組合の組合員で良かったと思えるように、力を合わせて頑張っていきたいと思います。



福井 奈美

パートナー専門委員
(安城支部)

記念すべき第50回の定期中央大会の大会議長・副議長・書記を務めていただいた3人からメッセージをいただきました！ 大変お疲れ様でした！



服部 正之

大会議長
(能見台支部)

大会議長という大役を務めさせていただき、ありがとうございました。本大会で決まった活動スローガン「未来への創造」に向け、組合員さんと一丸となって働きやすい環境づくりに取り組んでいきたいと思います。



高取 千尋

大会副議長
(大宮宮原支部)

第50回の定期中央大会という大きな節目の年に大会副議長という大役をいただき、ありがとうございました。「未来への創造」に向けて組合員さんとの繋がりをより大切に、今出来ることを一人ひとりが考え行動を起こしていける店づくりをし、支部を盛り上げていきます。



吉田 朱里

大会書記
(綾瀬支部)

今回、第50回の定期中央大会という大きな節目の年に出席させていただき、また大会書記として大役を務めさせていただきありがとうございました。この経験を活かし、労働組合の繋がりを大切にしていきたいと思います。

組合員の皆さんへ ゾーン議長よりメッセージ

今年度も、8つのゾーンにおいて活動を行っていきます！ ゾーン議長一同、皆さんとの活動を楽しみにしています！



松川 将也

北海道／東北・北関東ゾーン議長

2019年度北海道／東北・北関東ゾーン議長として活動を進めていくために以下の事を大切にしていきたいと考えています。

1.組合員の声に耳を傾け、しっかりと届けたい活動⇒会社を取り巻く環境は、年々厳しさを増しています。その中でこの難局を打破し、IVの未来を創るために私たち組合員が出来ることは日々ご来店いただくお客様に満足いただけるサービスや商品を提供することです。そのためにはやりがいを持って働ける職場環境を私たち組合員一人ひとりの「声」をもとに良いものにしていく以外に成し得ません。今年度はより一層、拳がたつ「声」に対してしっかりと耳を傾け、会社に届けることで改善・解決につなげていきます。このことが労働組合の大切な役割であると考え、活動してまいります。

2.組合員に近く参加しやすい活動⇒「声」を集めるには日頃の組合活動を通じた組合員の「参加」がなによりも大切です。「参加」してもらうことで組合員間のコミュニケーションの醸成や支部役員との信頼関係につながる風通しの良い「声」が拳がたつやすい環境につながると考えます。そのために組合員が参加しやすい支部イベントの実施や支部座談会等の活動に力を入れていきます。以上のことを大切に北海道／東北・北関東ゾーン組合員のみならずとも活動に取り組んでいきます。よろしくお願ひします。



池田 宣生

埼玉ゾーン議長

労働組合は結成50周年、会社も創業100周年と節目を迎えます。新たなスタートを切り、挑戦をしていくには「基本の徹底と協調」、「活発な議論」が必要です。労働組合の基本方針である「雇用の確保」と「労働条件の維持・向上」に向けて今一度具体的に何が出来るか、どの様にしたら、より改善出来るか組合員の皆さんと議論を通じて取り組んでいきます。現在、社会環境の急速な変化と共にお客様のニーズも変化し、厳しい環境下にあります。豊かな生活には企業の成長と発展は必要不可欠です。仕事、商売へのやりがい、職場環境の充実があるからこそ、より付加価値の高いサービス、商品の提供、地域から愛されるお店作りが繋がります。課題解決に向け、現在労使で行っている「改善＝工夫」運動の推進、良さの拡大を継続していきます。また、職場環境の課題、仕事をする上での悩み、人間関係等現場の課題に対して、一支部一組合の考えを軸に、迅速に対応出来る支部の組織作りを進めていきます。組合員一人ひとりの想いや意見の発信、皆で考え、皆で実行していくことから会社の永続的な発展、未来が創造されます。今年度も組合活動へのご理解、参画をお願い致します。



大場 ももこ

千葉ゾーン議長

本年度は、労働組合結成50周年、会社も創業100周年と、節目を迎える年です。取り巻く環境や情勢が日々変化し、厳しい状況が続く時だからこそ、今一度「初心と基本」「原点」を大切に「心機一転」新たな気持ちで、皆さんと一緒に活動してまいります。

魅力があり、やりがいを持って働きたい職場環境作りには、組合員一人ひとりの「声」が大きな力となります。組合員皆さんの声へ耳を傾け「社会・経営・現場との対話」を進めるために、コミュニケーションを大切に「組合員に近く活動」「共に進んでいく活動」へ取り組み、「魅力や価値を生み出す」「充実できる環境」を目指してまいります。

一人ひとりが、全員と一緒に、未来へ繋がる活動へ取り組んでまいります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



田中 大樹

東京ゾーン議長

私たちを取り巻く環境や情勢は日々変化し、私たち自身もその変化を捉え、対応していかなければなりません。昨年度はそのことを踏まえ、3つの基盤づくりに取り組んできました。2020年度はみなでつくってきた基盤を軸に、より活発な活動に取り組んでいかなければなりません。依然業績は悪い状況が続いていますが、組合員がやりがいを持って、目標を持って働ける環境を、働きやすい環境をつくっていくことが、私たちの未来を切り拓いていく一つの力になります。

今年度のスローガンは「未来への創造」です。今、下を向きがちな状況だからこそ、進むべき将来の姿を捉え、その目標に向かって全員で取り組んでいくことが必要です。組合員が一丸となり、一つの目標に向かうことで大きな力、大きな成果を出すことができます。組合員の声が自然と集まる、風通しの良い活動を通じて、私たち自身の手で未来を創っていきましょう。今年度も組合活動へのご理解とご協力をお願いいたします。



宇野 典孝

多摩・京浜ゾーン議長

今年度イトヨーカドー労働組合、結成50周年の記念すべき年となります。この場をお借りして一緒に活動を進めていく上での私の決意を述べたいと思います。私たちが取り巻く環境は日々、大きく変化しています。「組合員の幸せ実現」のためには、企業の成長・発展は欠かせません。そのためには、一人ひとりの意識改革が必要となってまいります。

労使で取り組んでいる「改善＝工夫」運動を通じて、自分の仕事にやりがいがある環境づくりに努めたいと思います。組合員の声を大切に問題解決に向けて、組合員が協力し、目標達成ができる様に労使協議を進めていきたいと思います。スローガンである「未来への創造」～魅力ある、社会的価値創造企業を目指して～、組合員の幸せ実現に向けて一緒に活動を盛り上げていきましょう。



丸山 亮人

神奈川ゾーン議長

私たちの取り巻く環境や時代は日々変化しています。その変化を正しく捉え、置かれた状況を組合員一人ひとりが正しく理解したうえで活動していくことが今必要とされています。今期は、組合結成50周年という節目の年となります。原点を大切に、「基本的な考え方」を根拠に置きながら、新たなことに挑戦していく1年にしていきます。過去から大切にしてきたイトヨーカドー労働組合の「基本的な考え方」について、改めて全員で理解する場面や共有する機会を積極的ににつくり、自分たちの未来に向けて具体的に行動を起こしていきます。

ゾーン、ブロック、支部の役員それぞれが役割に応じた機能を最大限発揮できる環境をつくり、組合員一人ひとりが「問題意識を持った活動」、「魅力や価値を生み出す活動」、「組合員に近く活動」に取り組める環境を共に目指していきましょう。

神奈川ゾーン執行部一同責任を持って取り組んで参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



滝澤 めぐみ

信越・中京／西日本ゾーン議長

今期の活動スローガンは、「未来への創造」～魅力ある、社会的価値創造企業を目指して～です。今年度、イトヨーカドー労働組合は結成50周年、会社も創業100周年を迎える節目となる年です。この記念すべき一年を「心機一転、新たなイトヨーカドー労働組合を結成」していく気持ちで、みなさんと一緒に活動していきます。

気持ちを新たにするにも、まずはイトヨーカドー労働組合の基本的な活動の考え方、IVの基本的な経営の考え方となる「原点」を大切にしつつ、全員で問題意識を持って組合活動に取り組んでいきたいと思ひます。

また、組合活動をする上で大切な、組合員のみなさんの声を聴く活動を進める為に、「組合員に近く活動」に積極的に取り組み、みなさんの声から「魅力や価値を生み出す活動」に繋がっていきます。

環境変化が激しい昨今ですが、皆で一丸となって、働きやすい職場環境、組合員のみなさんが職場で充実できる環境を目指して活動に取り組んでいきましょう！



中川 勇樹

中央執行書記次長本部ゾーン議長

2020年度は「組合員にとって身近な労働組合組織」を作っていくことにこだわって活動を進めています。

労働組合の活動は「雇用の確保」「労働条件の維持・向上」を目的に進めております。現場が抱えている不安を解消し、現場の課題をタイムリーに解決していき、組合員がモチベーション高く働く環境作りを目指すために「職場環境の改善」「風通しの良い環境づくり」に取り組んでいます。

イトヨーカドー労働組合は支部を組合活動の基盤とし、過去から活動を進めてきました。支部代表委員長が組合員の代表として「現場の声」をあげる事ができるよう、組合員が様々な活動に参加し、組合としての果たすことができるような体制づくりを中央役員が全力でサポートします。

一人ひとりの組合員と対話ができる組織作りによって、組合員にとって身近な労働組合を目指した活動を進めていきます。2020年度組合員の皆さんの積極的な参加・参画をよろしくお願い致します。



岡山 明日葉

書記局本部ゾーン担当

私たちの働く環境は目まぐるしく変化しており、厳しい状況が続いています。その中で問題や課題についてスピーディーに対応することが、今求められています。「現場で働く従業員全員が、日々当事者意識を持ちながら行動を起こし、労使が一丸となって解決していく」そんな組織を目指して皆さんの声を聴き、一緒に活動を推進していきます。職場の環境、労働条件がより良くなることで、働く皆さんのモチベーションが上がり、働きがいのある、そして魅力のあるイトヨーカドーを作っていきます！

また今年度は、労働組合結成50周年を迎えます。この機会に、改めて労働組合の基本・原点を振り返りその精神を大切にしながら、未来を見据えた活動をしていきましょう！今年度も、皆さんの組合活動へのご理解とご協力をお願いいたします。共に頑張りましょう！

田村まみ参議院議員にごあいさつをいただきました！

定期中央大会に田村まみさんがお忙しい中、駆けつけてくれました。 第25回参議院議員選挙のお礼を直接いただきました。

イトヨーカドー労働組合の組合員の皆さんへ

7月21日に行われた第25回参議院議員選挙において、皆さんから大きなご支援をいただき、参議院に送り出していただいたことに感謝申し上げます。本場にありがとうございます。

今回260,324人の方に名前を書いていたいただいたのは、これまでUAゼンセンの組織の中で私たちが労働組合の活動を積み重ねてきたからだと感じています。特に、柳沢みつよしさんが退任されてから流通産業で働いたことのある国会議員が1人もいなくなったことで「流通産業に働く皆さんの悩みを解決するために手段が足りない」という思いと日々の活動の積み重ねがあったからこそ、今回の結果に結び付いたと考え皆さんと一緒に喜びを分かち合いたいと思ひます。

一方で、自分たちの職場や生活に対する不安がこの関心の高まりに直結しているのではないかと、国会に送り出していただいた意味を改めて重く受け止め、自分たちの職場の改善のために皆さんとともにスタートを切りたいと思ひます。

UAゼンセンそして流通産業で働く代表としてこれから国政で精いっぱい頑張ってください。

また、改めてUAゼンセンの代表ですが、国民の代表であることも自分自身に課せられた使命であると感じております。私たちが働く職場、そして次の世代に私たちの大好きな流通産業を繋ぐために、改めて皆さんの現場の声をいただき、これからも皆さんと一緒に活動をしていきます。

参議院議員 田村 まみ



恵庭支部 支部解散式

多くのお客様に惜しまれながら、9月29日(日)に恵庭店が閉店をむかえました。
従業員の皆さん、大変お疲れ様でした。



恵庭店の皆さん、閉店セール、残務処理と大変お疲れ様でした。37年の歴史がある恵庭店は閉店というかたちにはなりましたが、働いていた皆さんが一致団結する力はこの店にも負けないと思ひます。

支部解散式を以て、残念ながら支部は解散してしましますが、恵庭支部での思い出を胸に、これからも頑張っていきたいと思ひます。皆さんには長い間組合活動へのご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございました。それぞれ違う道を進むことにはなりますが、お身体にお気をつけて、頑張ってください。

閉店日:9月29日(日) 解散式:10月3日(木) ところ:恵庭店店内 参加人数:142名



恵庭支部 支部代表委員長

川内 俊幸

食品館川越支部 支部結成式

11月28日(木)に食品館川越店がオープンします。それに先立ち、支部結成式を開催しました。



労働組合の活動を通じて、食品館川越店で働く全ての従業員が、毎日明るく楽しい日々を送れる活動の場になれるよう取り組んで参ります。

川越地域で一番愛され、多くのお客様から「ありがとう」を頂けるお店にする為に従業員一丸となって取り組んで参ります。

令和初の新店として、様々なことに挑戦していきますので、食品館川越店を宜しくお願い致します。

開催日:10月3日(木) ところ:狹山市市民会館 参加人数:99名



食品館川越支部 支部代表委員長

安達 祐樹